

# 文字で世界を変える

～全ての出会いに感謝～



## 輝く島原人

THE SCENE Vol.47 島原に生きる



市川さん愛用の筆談ボード

### 始まりは仲間との出会い

昭和62年、夫の転勤で長崎市で生活を始めた市川さん。ある日、新聞の手話講座の募集記事を目にした。昔、幼稚園で働いていた時、耳が不自由なお母さんと「カマエニケーション」をやるため、簡単な手話を学んだ経験があります。当時を思い出し、誰かの役に立ちたい一心で再び手話を学ぶ決意をしました。

手話講座が修了するころ、県内初の要約筆記奉仕員養成講座（以下、養成講座）の開講を知り、要約筆記が聴覚障害者への情報支援手段の「1つ」になると確信し、迷いなく受講を決めました。その後、講座を受講した仲間とサークルを立ち上げ、県の養成事業に携わり、平成17～18年には本市で開催された県の養成講座で、当時佐世保市在住だったにも関わらず、講師の一人として参加しました。

平成20年、翌年の島原転居を前に市役所福祉課を訪れ、本市での養成講座の実施を相談しました。そして翌年、以前の仲間たちへ呼びかけ、「島原要約筆記会すまいる」を結成しました。以来、12年以上に渡り、志を同じくする仲間たちと共に、本市の要約筆記者派遣事業へ参加し、聴覚障害者の支援を続けています。

## 「人生の達人」

いちかわ かつこ

### 市川 克子 さん (72)

昭和 24 年、諫早市で生まれ、育つ。地元の高校卒業後、県外に出た後、Uターンして諫早市内で幼稚園教諭として働く。幼稚園時代の経験と仲間との出会いから、手話と要約筆記を学び聴覚障害者支援に尽力。佐世保市社会福祉協議会福祉協力者表彰 (H17)、島原要約筆記会すまいる会長 (H18～)、佐世保市制施行 106 周年市政功労者表彰 (善行功労、H20)、新町在住。

なお 皆様のご意見や感想を今後の地域懇談会の参考とさせていただきたいと思っておりますので お配りしております

手書きやパソコンを利用した文字をプロジェクターで投影



難聴者のラジオ出演を支援



仲間と一緒に記念写真

## 手の温もりで伝え続ける

派遣事業は南島原市、雲仙市を含む半島全域へ拡大。「すまいる」もその伴い成長していきました。

活動の中を最も大切にしていることは、聴こえない障害を持つ当事者との交流です。教科書では学べない、当事者からの学びを意識しながら、難聴者や中途失聴者、奉仕員や県登録の要約筆記者、要約筆記に理解のある健聴者が共に活動することで、会の方を高められています。

ある時、夫を亡くした高齢難聴者が「私は難聴になって幸せです。筆談できる仲間と出会えて嬉しです」と、言われました。その言葉に、要約筆記を通じて生きがいのある人生を送りたい、活動を通じて社会参加していきたい、そして「口」の役割をわけてくれる大切な仲間がいていいなと、思いました。

「半島三指」に張った要約筆記の太い根に枝葉をしっかりと伸ばしながら、音声情報のバリバリフリー社会の実現を目指し、「微力ではあるが、無力ではなりたい」と信じて、仲間と共に活動を続けています。筆談ボードを手に、気づいたことや、聞かれたらすぐ、手の温もりで書き伝えたいことを「すまいる」と、今後の目標を語ってくれました。